



ま な ご の り あ き

眞 砂 典 明 氏

生年月日 昭和6年10月20日生

住 所 田辺市龍神村柳瀬

昭和38年和歌山県庁を退職後、帰郷して林業家への道を歩み始め、今日まで自己所有の山林経営に邁進してきたが、この間、林業経営の模範となる取組を行うとともに、関係団体等の要職を歴任し、森林・林業振興のための組織力の強化、林業者の社会的・経済的地位の向上等に献身的に努めてきた。

氏は林業経営において、労務管理の近代化に取り組み、従業員の就労の安定と所得の増大を図るため、当時画期的であった日曜・祝祭日の休日制の導入、降雨時の就労対策と除間伐材の利用促進を兼ねた木工部の立上げを行った。これにより、地域の林業者や森林組合へも波及し、現在の社会保障制度の充実に寄与することとなる。労務対策の一環として始めた木工品製作、特に昭和54年から毎年手作りしている「干支シリーズ」は、平成21年の「丑」で30作目を迎え現在も好評を得ている。

昭和44年からは龍神村森林組合理事の一員として組合の育成強化に努めながら、関連産業の整備と育成が地域林業の振興と雇用の場の確保につながるものと、木材加工施設の設置による建設用材の生産、市場拡大や流通促進、間伐材の利用開発等に取り組むなど、地域産業の育成に努めた。また、「龍神林業懇話会」の会長に就任するや、地域ぐるみで林業振興に取り組むために林業関係団体の組織化を図り、「龍神林業開発会議」を発足するに至った。昭和47年にはその委員長に就任し、地域林業の振興には関係者の連帯感と団結が必要との信念のもと、「苗木づくりから住宅産業まで」を合言葉に取り組むなど、地域林業全体の発展に大きく寄与している。

林業後継者の育成・確保を図るため、昭和30年代に「林業研究グループ」が全国各地で結成され、その情報連絡や統一的な活動を推進するために、各都道府県に「林業研究グループ連絡協議会」が、全国的な組織として「全国林業研究グループ連絡協議会」が設立された。氏は昭和50年から和歌山県林業研究グループ連絡協議会会長、昭和61年から全国林業研究グループ連絡協議会会長を歴任し、全国的な視点に立って林業グループの育成・発展に努める。この間「山林からのメッセージ運動」を提案し、森林・林業の重要性を正しく理解してもらうための活動を実践するとともに、女性林業従事者の掘り起こしにも着目、「全国林業研究グループ連絡協議会女性会議」を設立

し、その後女性組織の活動が大きく飛躍するなど、女性の社会参加にも寄与する。県内においても林業技術、林業経営の研究改善に努めるとともに、次代を担う子供達に森林・林業の重要性を理解、認識してもらうため、「森林・林業教室」で自らも教壇に立つほか、所有山林の一部を「学遊林」として児童への教育と遊びの場に開放するなど、地域においても様々な取り組みを行っている。

龍神地域の歴史は林業の歴史といえるものであるが、常に地域をリードしながら、関係者と力を合わせ林業振興に取り組んできた、氏のたゆまぬ努力は地域住民からも高く評価されているところであり、地域の発展、活性化に大きく貢献している。

[略 歴]

昭和 30 年 3 月	日本大学農獣医学部林学科卒業
昭和 31 年 5 月	和歌山県庁入庁（昭和 38 年 2 月退職）
昭和 38 年 3 月～	林業に従事
昭和 44 年 6 月～平成 4 年 3 月	和歌山県龍神村森林組合理事
昭和 44 年 6 月～昭和 53 年 3 月	和歌山県龍神林業懇話会会長
昭和 47 年 7 月～昭和 53 年 6 月	和歌山県龍神林業開発会議委員長
昭和 49 年 12 月～平成 13 年 12 月	和歌山県国土利用計画地方審議会委員
昭和 50 年 7 月～平成 11 年 8 月	和歌山県林業研究グループ連絡協議会会長
平成 11 年 8 月～現在	同協議会顧問
昭和 51 年 2 月～現在	和歌山県森林審議会委員
昭和 61 年 4 月～平成 10 年 3 月	全国林業研究グループ連絡協議会会長
平成 10 年 4 月～現在	同協議会顧問
平成 8 年 3 月～平成 17 年 4 月	龍神村選挙管理委員会委員長

昭和 55 年 6 月 「地域林業振興の一翼を担って」（清文社）を発刊

[受賞歴]

昭和 48 年	和歌山県知事表彰（農業研究賞）
昭和 52 年	和歌山県知事感謝状（緑化功労）
昭和 53 年	ノースロップ賞
昭和 60 年	朝日森林文化賞奨励賞
平成 4 年	和歌山県知事表彰（県政功労）
平成 11 年	農林水産大臣感謝状（林業普及事業功労者）
平成 13 年	農林水産祭林産部門天皇杯
平成 16 年	叙勲 旭日双光賞（林業振興功労）

〔田辺市文化賞受賞コメント〕

このたび、はからずも田辺市文化賞受賞のお知らせを頂きました。

田辺市民として、龍神村民として身に余る榮譽誠に光栄に存じます。

私にも出来た“小さな点の行動”を積み重ねて参りましたが、その行動を支え、ご指導、ご支援下さいました多くの皆様に、いま改めて心から感謝と御礼を申し上げます。

有難うございました。

木の国龍神

眞 砂 典 明